

210630定例記者懇談会冒頭発言メモ

○第七管区海上保安本部長の江口です。

○本日はお集りいただきありがとうございました。

定例の記者懇談会の再開に向け着任以来準備をしておりましたが、ようやく開催することができました。七管区では1年3ヶ月ぶりということで非常に嬉しく思っております。

○着任会見時に、「現場第一主義」とお話しましたが、着任からの3ヶ月の間に、管内の全ての各部署等へ足を運び、きめ細かく現場の様子の把握に努めてきました。七管区は、非常に現場が鍛えられており、現場力及び職員の質が高い素晴らしい管区だなという印象を率直に受けております。

○一方で少し気になったのが、広報関係を含めた「発信」が遠慮がちだということです。とにかく情報を発信しなければ、現場でやっていることを正確に皆さんへお伝えすることができないという事を、各部署でトップの方達、現場の方達も含め伝えてきております。

○具体的には2点。

1点目は事件事故の広報に関し、これを出しても記事にも取上げていただけないような軽微な話だからという遠慮や、あるいはせっかく出すんだから、きちんと概要を掴んで、裏取りをして間違いないような形にしたいという気持ちから、事案発生から5～6時間経ってからのかなり詳細な第一報という状況があちこちに見られている現状です。

改善のため、発生した事案については基本的に「全広報」という指導を各出先機関にしております。中には誤情報に基づく発動、あるいは軽微な案件だったりするものもありますが、皆さんに現場で起きていることを伝えることが重要なので、七管区の勢力が発動する全ての事案について、1時間以内を目標に広報することとしております。

○2点目は、映像の提供です。七管区は捜査で全国に名を売っている管区ということもあり、現場から上がってくる映像・写真は事件の証拠写真のものが主流になっています。一般の方が見られた際に、現場

で起きてることの概観が印象的に分かるような映像も撮影する習慣づけと、ゴープロの常時装着を進め、起きていることを各部署でコンパクトに編集してオンラインストレージに載せ、広報時に現場の映像をできるだけお届けするよう努めてまいります。

○以上のような取組みも含め、できるだけスマートに様々な情報提供を行っていきたいと思っております。記者の方からも、「ここはもうちょっとこんな感じで」といったお話をいただけると、我々も洗練されていきますので、記者懇談会の機会も含め、ご協力頂ければなと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○また、就任会見の際に、七管区の重要な業務として3点申し上げました。先ずは国境管区としての「水際対策」の話、そして2点目は、来週から雨の予報になっており警戒を高めているところですが、「災害への即時対応」について、そして3点目が本日お越しいただいた「海上交通センター」が大きな役割を果たしている「関門海峡の安全」であります。

○24時間体制で、世界でも屈指の難しい交通の難所をコントロール、洋上でも各保安部から船が昼夜を問わずしゅう戒、安全を守っている様子をぜひ直に見ていただきたく、本日は異例ではありますが、記者懇談会を関門海峡海上交通センターで開催させていただきました。

○現場あつての海保であり、次回以降もできるだけ現場の活動にスポットを当てた定例記者懇談会の機会を設けていきたいと思っておりますので、引き続き宜しくお願いします。

私からは以上です。